

平成 30 年 11 月 5 日

浜田市議会議長 川神 裕司 様

議員名 布施 賢司



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成 30 年 10 月 20 日 (土) ~ 21 日 (日)

2. 調査研修内容

浜田藩主であった松平周防守家が幕末を迎えた川越市を訪問し、市長表敬、議長表敬・面談して浜田市の久保田市長、川神議長のメッセージを手渡す共に、所関係団体に「浜田開府 400 年祭記念事業」に向けた協議を行う。

* : (行政の担当課である開府 400 年推進室長 川合香佳子氏同行)

3. 研修先

埼玉県 川越市と所関係団体【初雁温知会、光西寺、行列保存会】

4. 調査経費 35,042 円

(経費内訳：浜田市～広島空港～羽田空港～川越市)

交通費 (航空券往復)	23,780 円
交通費 (移動費)	5,362 円
宿泊代	5,900 円

5. 調査研究活動の概要

別紙のとおり



【視察研修の概要】

○10月20日（土）市長・議長表敬、初雁温知会との協議

◆川越まつり視察

ユネスコ無形文化遺産「山・鉦・屋台行事」、国指定重要無形民俗文化財
今年5月10日に当市を委員会視察された吉田光雄川越市長（初雁温知会会員）
にご案内頂き、市庁舎前広場来賓席で「山車揃い」の儀式他を見学した。



市庁舎前広場に集結した各町内の山車揃い



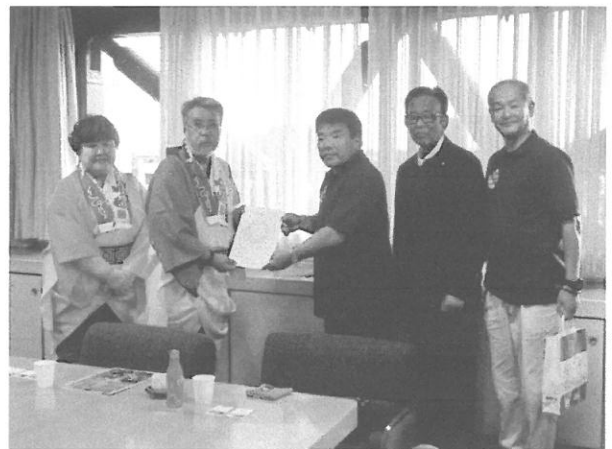
来賓席で浜田開府400年ポロシャツを
着用してPR!

◆川合善明 川越市長、小野澤康弘 川越市議会議長表敬・面談

久保田市長からのメッセージを川合市長に手渡し、「開府400年祭記念式典」への出席を依頼した。来年の式典には前向きで参加したいとの市長からの言葉であった。そして、川神議長からのメッセージを読み上げて小野澤議長に手渡し、歴史的なご縁から議会同士の交流をさらに深める事をお願いしてきた。



川合推進室長から川合市長に手渡し



岡本市議から小野澤議長に手渡し
(左側の女性は山木綾子副議長)

- ◆初雁温知会との協議、山車屋台交流会会場にて（松崎公男会長、可児一男理事）
「開府 400 年祭記念式典」出席に向けた協議を行う中で、初雁温知会は 4 年毎に浜田に墓参しておられますが、開府 400 年に合わせて 1 年早く来浜して頂く事の了解を得た。当市からの費用助成についても説明した。（3 年前の来浜時は合宿補助金を利用）20 名程度の参加予定であるとの事でした。



蔵造り歴史まちづくりに長い年月をかけ取組んで



可児理事所有の車庫を開放して市民交流

こられた結果が今の景観である。（歴史を大事にする）センターとして、おもてなしをされていた

- ◆川越藩火縄銃鉄砲隊保存会との協議（寺田勝廣代表）

浜田藩で教育されていた砲術「田付流」とは異なる流派であること、旅費・出演料等、招へい費用の負担が大きい事がわかった。初雁温知会との関係も良くないとお聞きした事でもあり、具体的な話は出さずに名刺交換だけにした。誘致は見送りたいと思った。

○10月21日（日）光西寺参拝、川越藩行列保存会との協議

- ◆光西寺参拝

松平周防守家の菩提寺・墓所である光西寺を参拝した。浜田藩の菩提寺であった当市の光西寺が周防守家の転封に伴って福島県棚倉、川越へと移り、大正時代に温知会により建立。境内には家臣のお墓もあり、周防守家ゆかりの文化財も数多く所有。（多くは市立博物館に保管展示）ご住職は浜田の光西寺ご住職と同じ緋川の性である。



松平周防守家廟所

石州浜田、奥州棚倉の藩主を経て川越に転封したのが慶應 2 年(1866)で、以来明治 4 年(1871)の廃藩置県まで、康英、康載の二氏が川越藩主となり、領高は 8 万 8 百石であった。

光西寺は松井家の菩提所で現在は「松井家累代之墓」とあるように松井家累代の遺骨 170 余柱が合葬されている。

昭和 33 年 3 月 川越市教育委員会

- ◆川越藩行列保存会との協議（金子正之会長（初雁温知会会員）ほか3名
川越藩時代の大名行列をできるだけ忠実に再現し歴史を伝える活動を行っている団体。浜っ子春まつりへの参加に向けて準備検討いただいている。当市からの費用助成について説明した。保存会からの参加者20名程度に当市のボランティアを加え30名程度の隊列にしたいとの事。日程にあわせニューキャッスルホテルを既に予約されていて、意気込みを感じた。宴会場を更衣室として1日使いたいので、着付けをしてくれる人を2~3名手配してほしいとのこと。行列は「里帰り行列」とし、歩くだけで武芸の披露等パフォーマンスはしない。現時点で、公共交通機関利用するほか、荷物運搬用に自家用車にて来浜予定。



光西寺にて 前列中央が緋川住職、 後列中央が金子会長

【所 感】

往年の約束であった、吉田川越市議のご案内で世代や性別を超えた市民参加型の「川越まつり」を視察・見学できたことと、「開府400年祭記念式典」のご案内を川合推進室長と一緒に川越市行政、議会、所関係団体のトップと面談しお伝えできたことは、関係がある両市にとって大いに意義のある視察でありました。

現在、三重県松阪市とは民間団体からの交流から始まり、数年経て「駅鈴協定」まで発展し都市間交流が盛んになっています。それと同じように川越市ともご縁があり「初雁温知会」と議会の交流が始まっていますので、開府400年を期に、都市間交流が盛んになる事を私は願っております。久保田市長も東京出張の傍ら、川越市まで1時間未満です、是非とも直接訪問して今後協定を結ぶ位の行動力が必要だと思います。また、「川越まつり」をみて感じた事は、町内ごとのお揃いのハッピーを着てお囃子に合わせて山車を曳き歩く一体感、子どもから大人まで歴史を大事にしてその文化を後世に伝える事をまち全体で取組んでいることが分かるまつりでした。後で聞いた話ですが、一年を通して町内ごとに一致団結して相当準備しているとの事でした。川越の「まちづくり」の次世代のリーダー育成は、この「川越まつり」を通してできているとも感じた次第です。案内して頂いた吉田川越市議には感謝いたしますとともに、是非、来年の浜っ子春まつりや秋の記念式典で、多くの川越関係者が来浜されることを願っています。